



篠叟会郎作
鹿島戦記
第六
加々吉板



1432

5

藤田仙果録
永島孟齋畫

繪本 鹿兒島戰記

東京書肆

清成堂版

繪本鹿兒島戰記三編下之卷

東京

藤田仙果録

茲小長崎より肥後海上を固め
たる汽船清輝艦小築組より
小笠原中尉坂本少尉
に向つて敵地の案内
知らざれば百事味りの
不都合ありしうて今宵
上陸し大隅地を
窺ひ此美いかとあり
れば坂本少尉も小ひき
とをぬ拙者もよくそら
付よりあるべし其準備せんと



鹿兒島三

48-7866

○履めて蹴かき
 一方とうち破り水艦へ
 戻りしが坂本少尉も
 ちりく働らぬ敵四五
 人と討とりし其身
 も薄疵を受たれば
 傍ある山へ逃げり
 行方志はばよありに
 けり水兵八名も生死
 存亡さしあつらば水際
 不繋ぎし端舟の敵の為る大奪

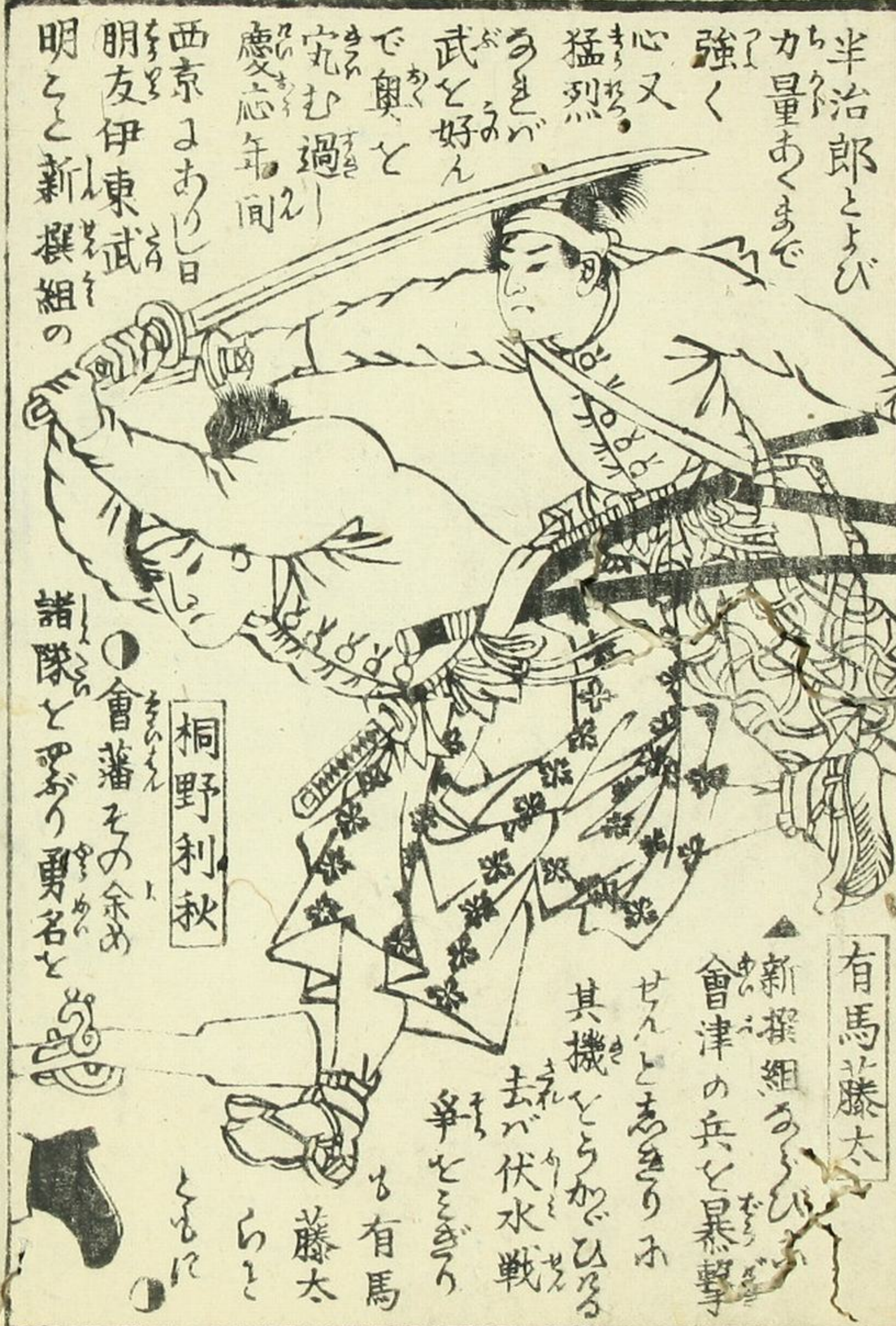


△中村と
 のい俗名
 △桐野
 利秋の
 姓と



伏見奉行殿
 桐野利秋
 一生命と
 戦ひし者
 戦ひし者
 戦ひし者

木小家よりその勢凡そ二十名むらうく
 心人々を追とり巻声はあつりつらうれて
 と警備の我々網を張りしと心付べらうく
 来りし敵のあまひもつらうも洩さずか
 されと八方より討てかまへ此方
 一生命と



半治郎とよび

力量あつまで

強く

心又

猛烈

武と好ん

で奥と

究む過

慶忘年間

西京よありし日

朋友伊東武

明と新撰組の

有馬藤太

新撰組の兵と暴撃

せんともあさり小

其機とらかひなる

去バ伏水戦

争ととる

も有馬

藤太

らと

とも

とる

とる

とる

とる

とる

桐野利秋

會藩その余め

諸隊とあり勇名と

一時真しう

其のち東

國鎮征の

とる軍

監とあり

とる

とる

迎藤勇と闇殺

されしと聞あひ

美のちめふ其あふ

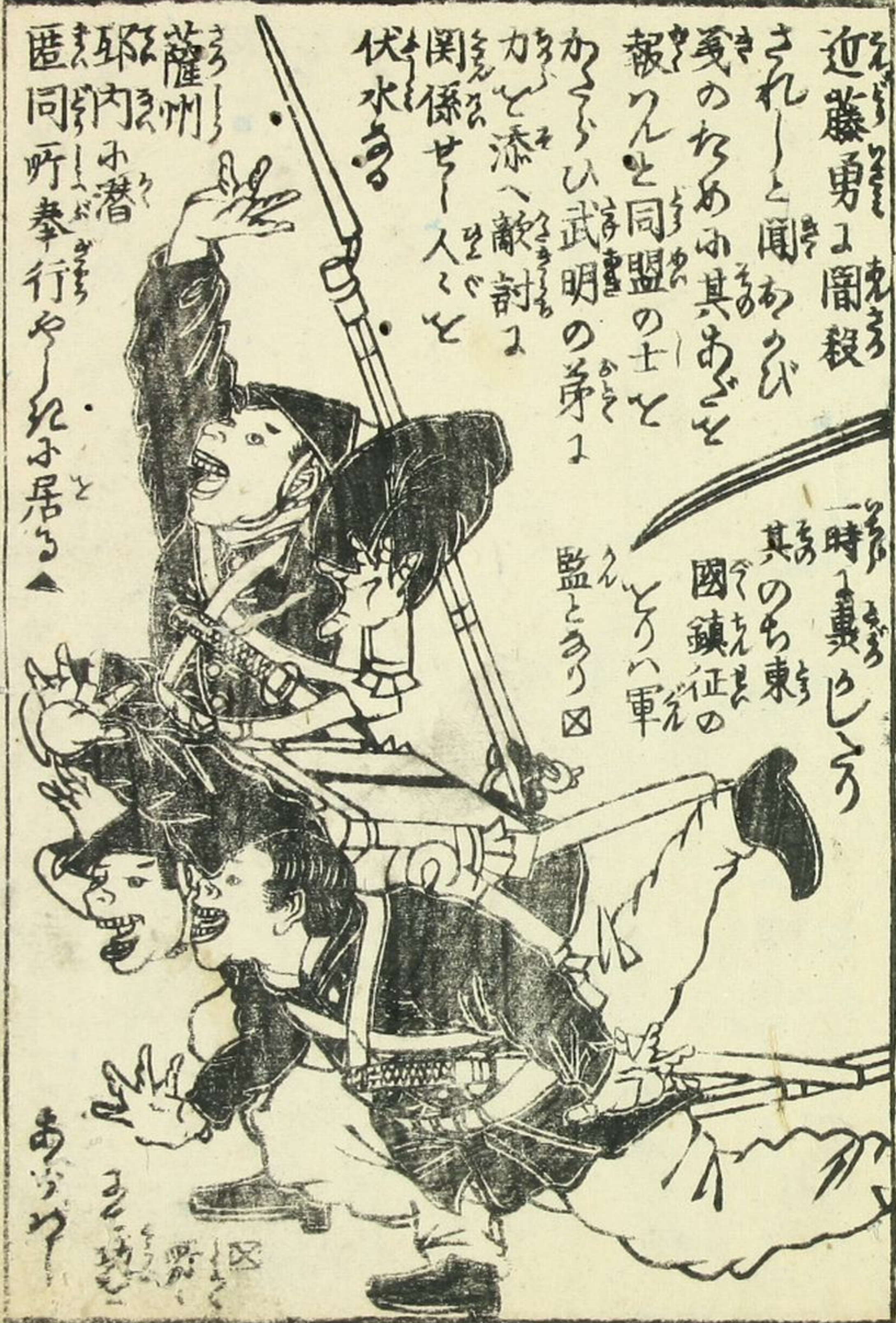
報つんと同盟の士と

かつらひ武明の弟と

かつと添へ敵討と

関係せし人と

伏水と



薩州

内小

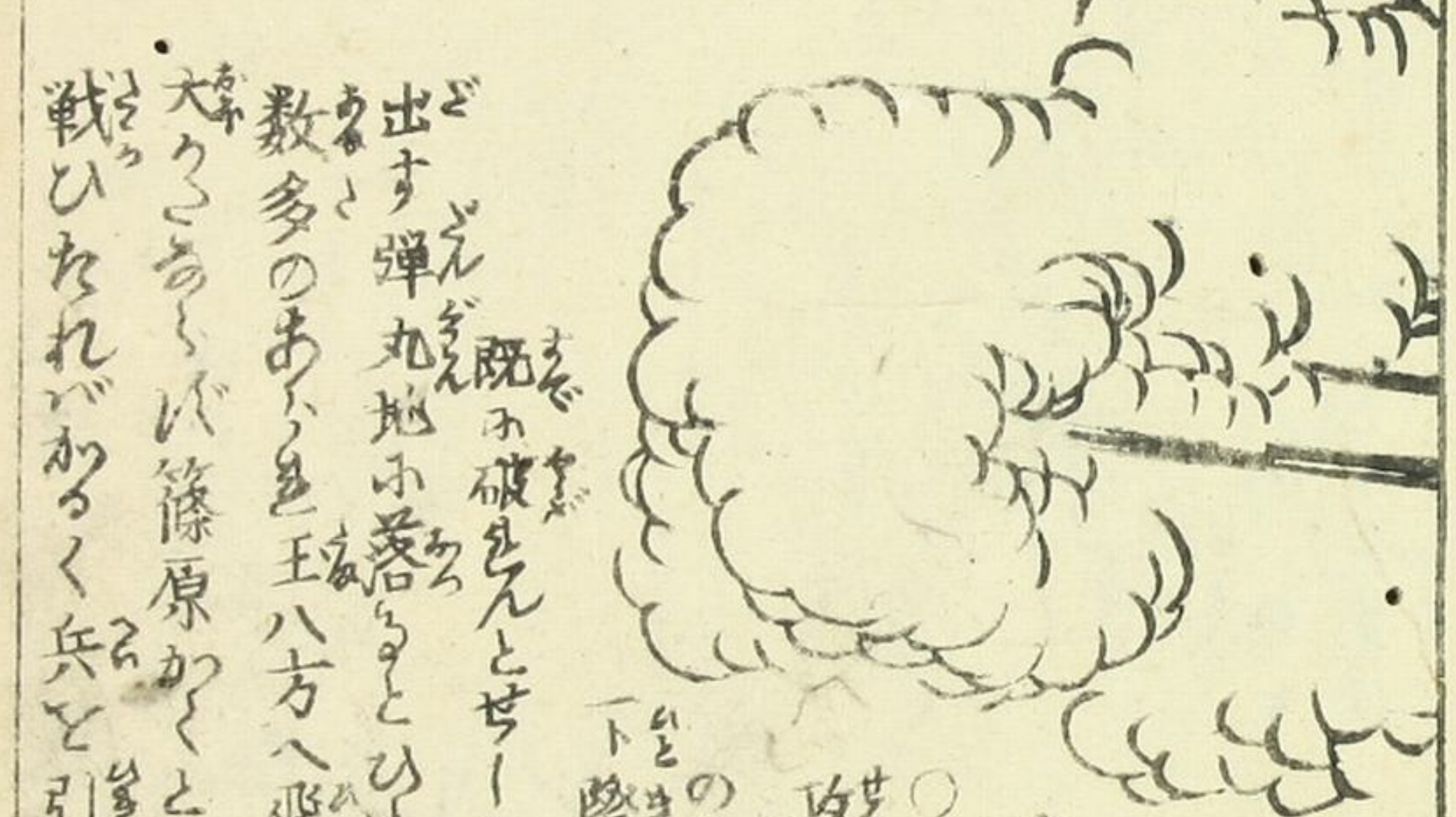
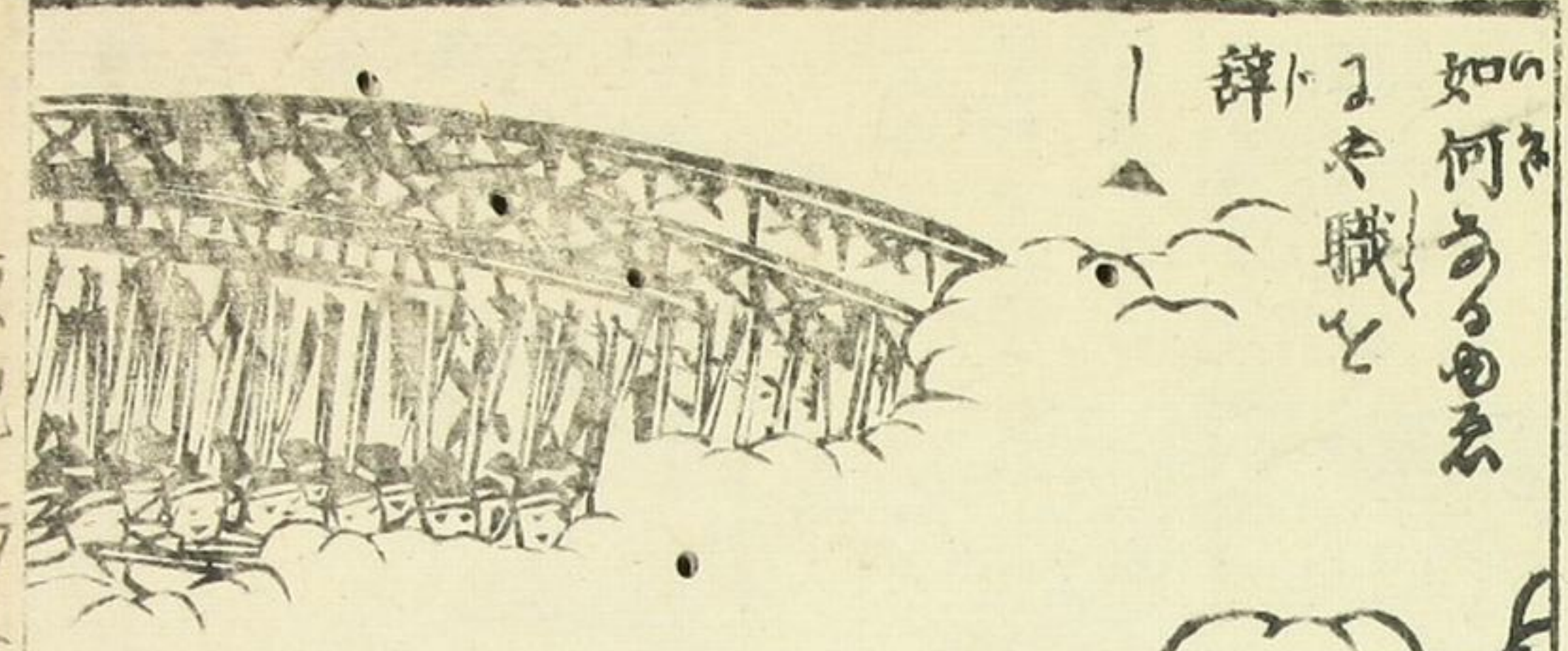
所奉行や

あつ

會津若松の
 城攻のとり
 越後口より進んを
 第一むん
 無そ莫太
 たる陣懸えれ
 衣然正五位
 小任ト軍更
 に長
 陸軍少將
 たりトが

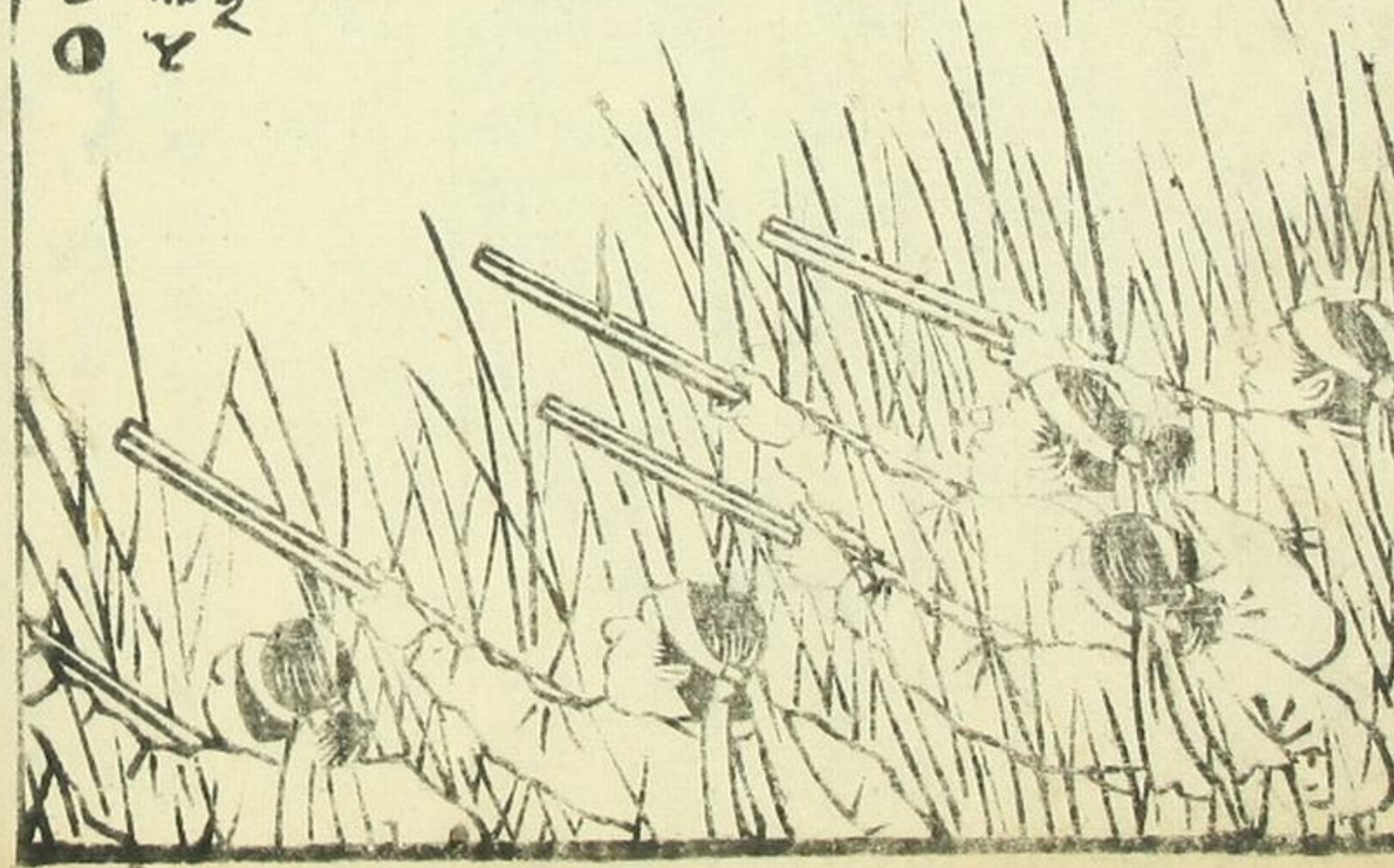
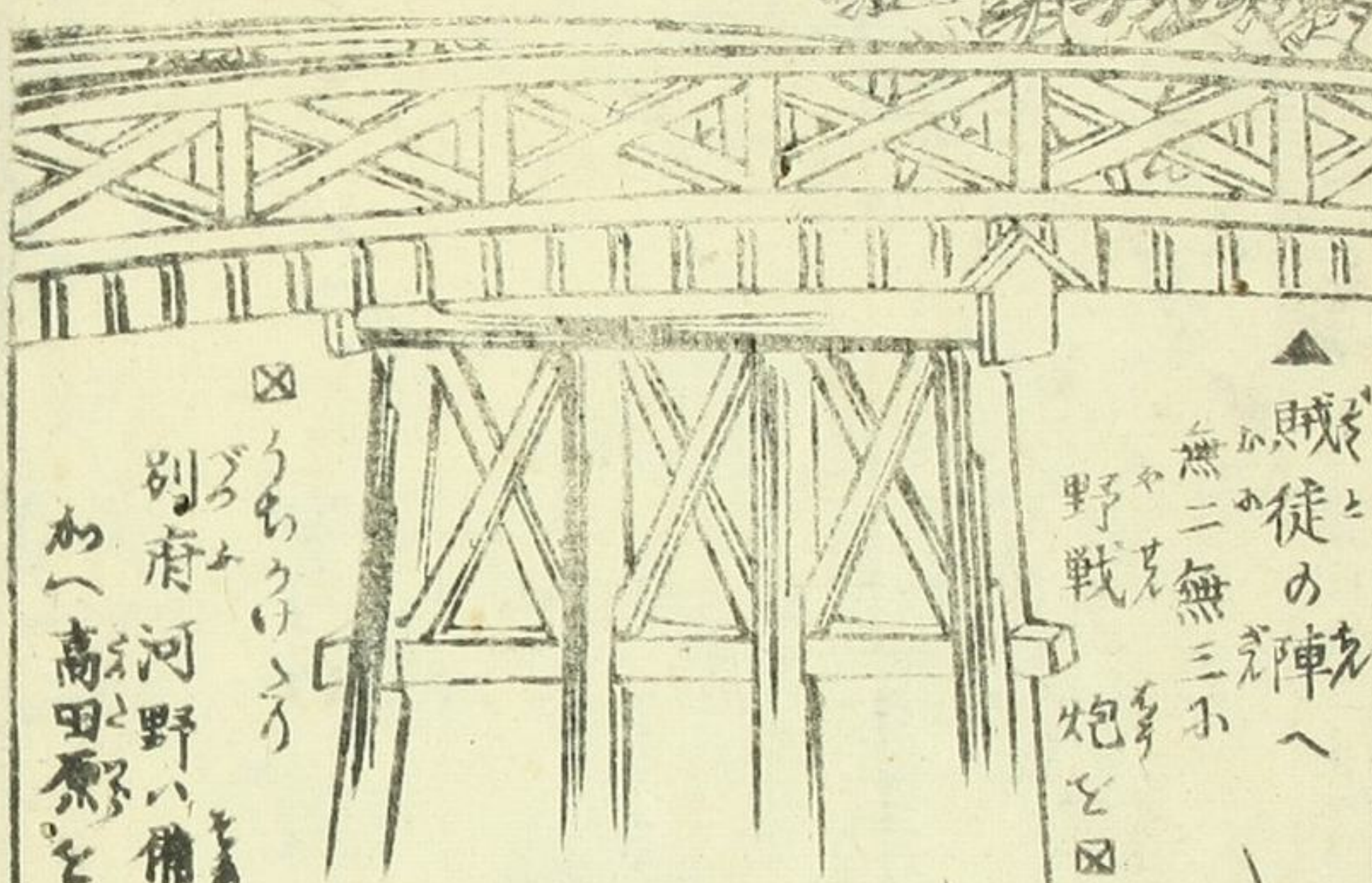


鹿兒島ふくじより
 朝廷まきく召りて



如何あるも
 辞
 既破せんとせし
 出す弾丸地小落るとひとく破列せし中より
 数多のあはる玉八方へ飛乱あせび奇心死傷
 大くあはるば篠原かくと見るより由教刺の間
 戦ひたれはかく兵と引上てあはる息を休る

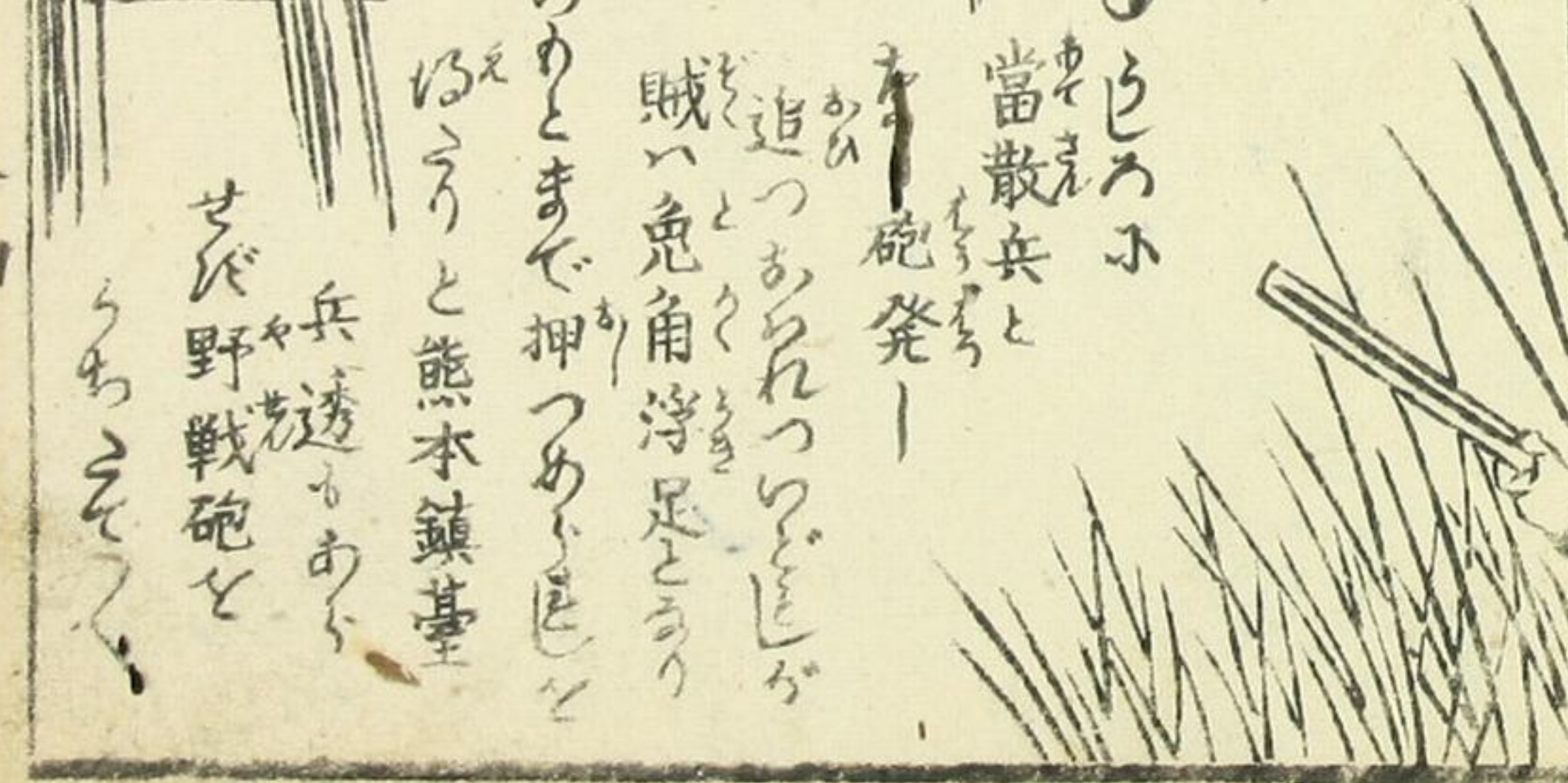
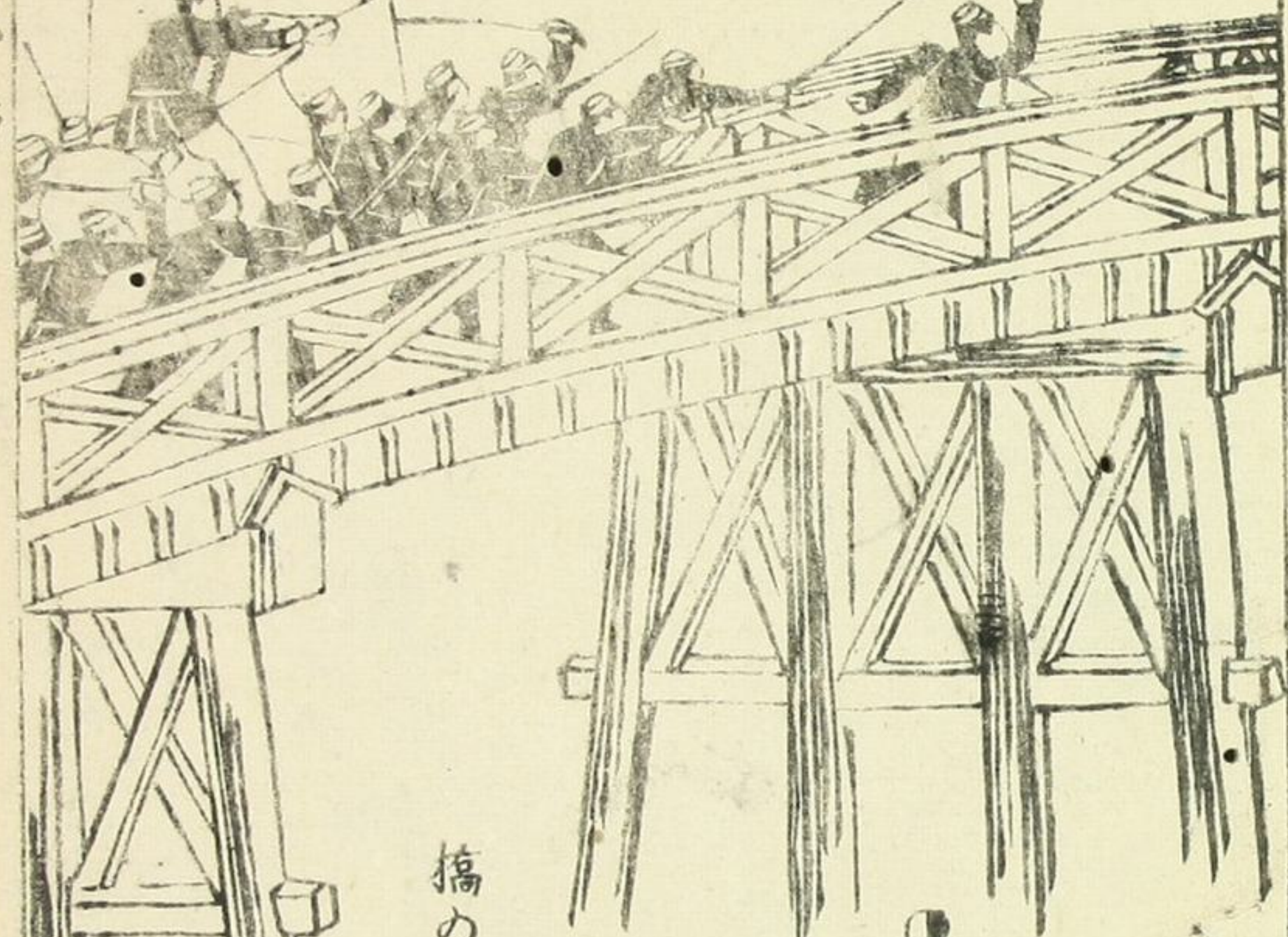
此時の戦ひは、死傷の者多し。附屬の別府新助、河野四郎、



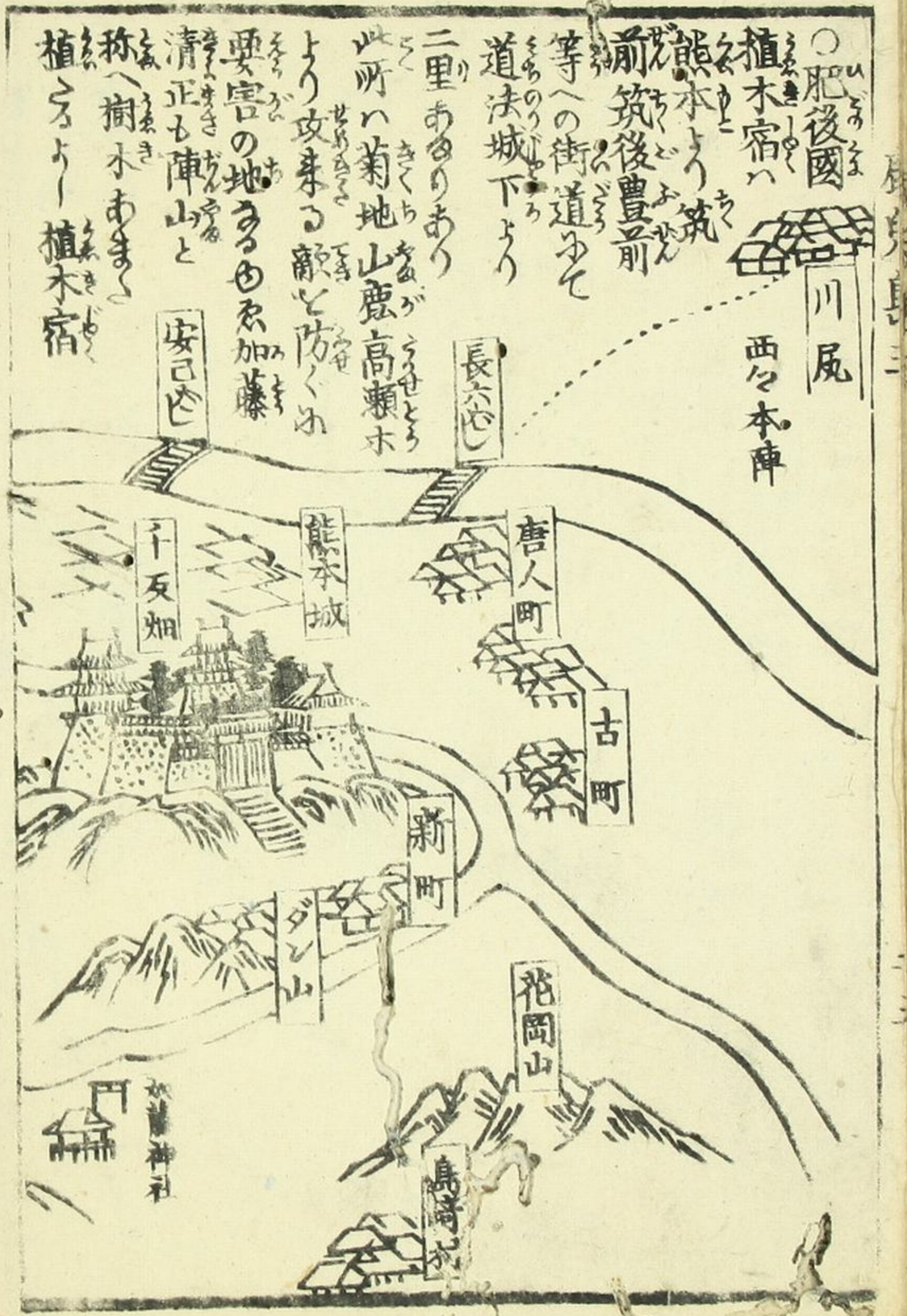
賊徒の陣へ無二無三の野戦砲と

別府河野の備と高田原と

六百余人の暴徒と指揮し安己、搦と



追つたれつゝ、賊ハ兎角浮足と、搦のりたまを、押つたるに、兵透り、野戦砲と



○肥後國
 植木宿
 熊本城
 前筑後豊前
 等への街道
 道法城下より
 二里ありあり
 此所の菊地山鹿高頼ホ
 上の攻来る敵と防くハ
 要害の地なる由加藤
 清正も陣山と
 稱(樹木あまき)
 植木宿



より七木村と
 七木の葉
 町へ行く前
 田原坂の嶮
 あり賊徒の隊長村田新ハ
 洲辺高照の両人ハ六百余人と
 引率一植木宿へ繰出
 田原坂の要害小臺場とくまへ
 待々けり
 福岡の分宮兵へ七木
 村へとち寄り田原坂の
 難所を互ひ鉄砲打出
 戦い戦利及びり
 ○茲は何者の仕業あるや大坂の

五江橋 京町橋 靱堂島 万字ヶ辻の
四ヶ所へ張札と掲ぐりその文は

今般貧民救助のる兵端と聞る

隨て諸税罪金

等の律と廢す

仍て今日より

安堵して營業

但し此布紙と破捨する者ハ

正し嚴罰可申付也

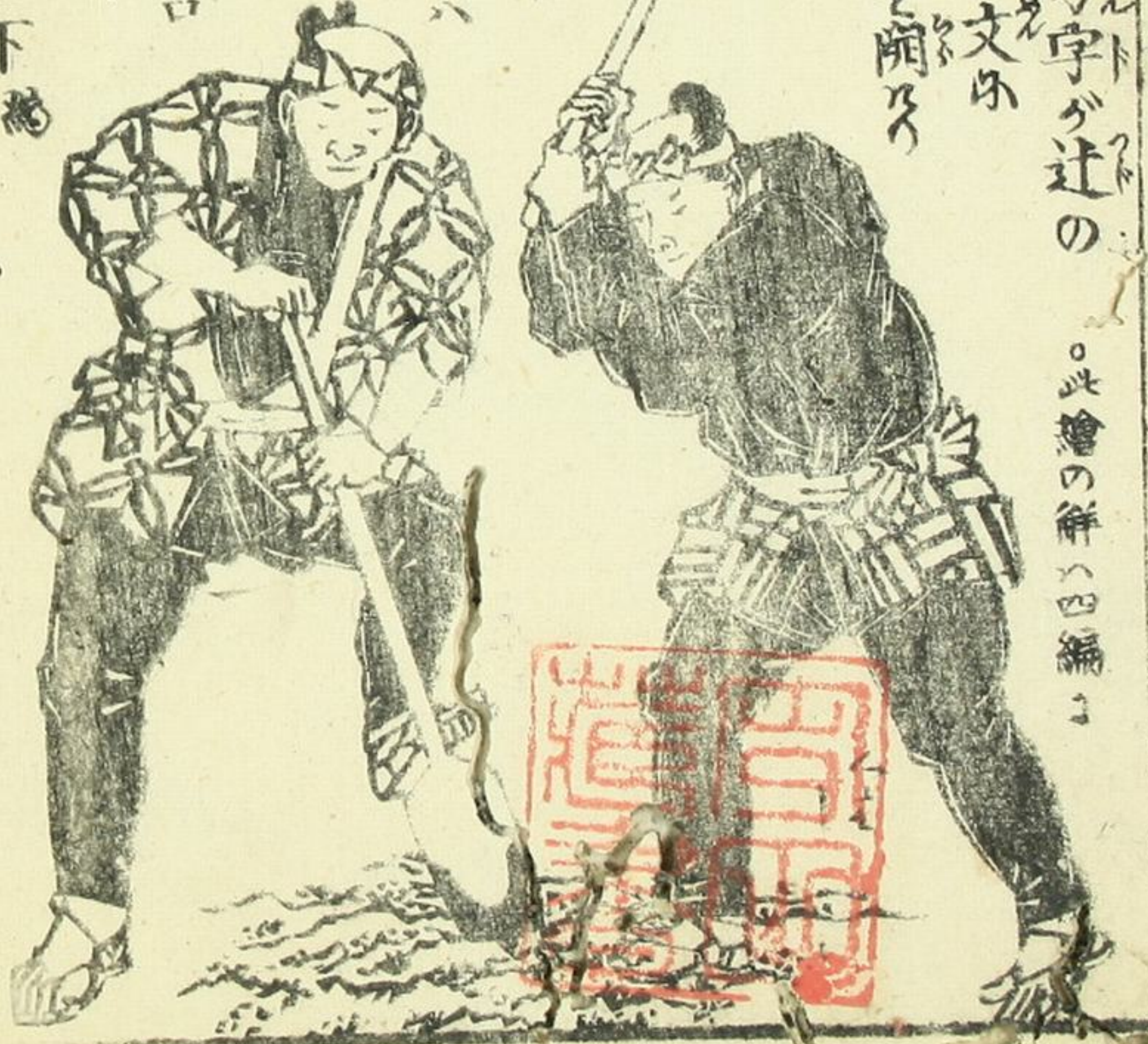
新政大都督出張所

と認めらるるの扱熊本城南本口

高瀬木の戦ハ次編ハ記す

繪本鹿兒島戦記三編下

此繪の詳ハ四編



010190510404

持田家